

## 46 多摩川決壊の碑



### 【講評】

昭和49年、猪方4丁目付近の堤防で起きた多摩川決壊は、狛江の大水害として今もなお語られています。現在は強固な護岸や堰の整備が完了しています。あれから30年以上が過ぎましたが、人々の記憶にいつまでも残る教訓として「多摩川決壊の碑」は作られたことと思います。堤防の決壊から失ったもの、得たものは大きく、まちづくりにおいて地域資源を生かさなければいけません。同時に危険と隣り合わせであることも忘れてはならず、市民が意識を高めて狛江に関心を持ち、守っていくという思いが込められていると感じられます。碑の周囲に設置されたベンチに座り、多摩川決壊について想うことができる点も評価できます。

受賞者：なし

推薦者：清水 節治 さん

### 【推薦コメント】

狛江市猪方4丁目横の多摩川河川敷に、「多摩川決壊の碑」がある。1974年9月、多摩川堤防が決壊、猪方地区の家屋19棟の流出という大被害をもたらした。大都市近郊大災害のリアルタイムの報道、その後の国を相手取った住民訴訟の勝訴（1992年確定）、いずれも全国的に注目された大事件であった。被害者家族をモデルにしたテレビドラマの放映も話題になった。

堤防決壊は二ヶ領宿河原堰左岸の激しい迂回流からの侵食が原因だった。1998年、従来より40m下流に、流量を調整できる可動堰が完成し、翌年、建設省京浜工事事務所と狛江市連名の碑文がはめ込まれた「多摩川決壊の碑」が建てられた（2009年は10周年にあたる。）

三角錐の碑3面には、碑銘、碑文、決壊時の写真がそれぞれはめ込まれている。碑は狛江市が占用許可を得て管理する自由広場のほぼ中央にあり、碑の周りは生垣、ベンチで小公園のようにしつらわれている。碑の背後は二ヶ領宿河原堰、多摩川の流れ。

自由広場の看板には「一みんなのひろばですーおにごっこ広場 おべんとう広場 ままごと広場 ねころび広場」と書かれているが、朝夕、そして日中、いつも誰かが駆け回ったり、歩いたり、座ったりしている。その広場の中の多摩川決壊の碑、この碑は多摩川の豊かな自然が時に大震災をもたらす存在であることを「後世に伝える」碑であるとともに、全国に「こまえ」の名を知らしめた（それまで「狛江」の地名を読めない人も少なくなかった）記念碑でもある。大事にしてゆきたい。